

農 林 水 産 大 臣 賞

『思い出のびわの実』

静岡県浜松市立東小学校 四年一組 男子 藤川 瑛大

小学二年生の時に、給食のデザートで「びわ」が出ました。ぼくは、そのびわの実のことがわすれられません。

そのびわは、とうめいの毛がうつすら生えていて、さわるとサラサラしていました。うすい皮をむくと、みずみずしいオレンジ色の実が出てきて、かじりつくと、口の中に甘い汁がしみ出してきました。中には、大きくてピカピカの種が入っていました。

午前中に、体育のじゅ業があつたからでしょうか。とれたてのびわだったからでしょうか。友達といっしょに食べたからでしょうか。そのびわは、これまでに無いおいしさでした。

それを食べている時、ぼくの頭にお母さんの顔がうかんできました。

「お母さん、このびわを食べたらよろこぶかな。」

でも、びわはもう無いし、給食は家に持って帰れません。ぼくは、その最高においしかったびわの種だけでも、お母さんに見せてあげたいと思いました。そこで、給食用のハンカチに、種をそつと包んでおきました。

家に帰って、給食セットをあらうために、給食ぶくろを開けました。すると、中から大きくてピカピカのびわの種がボトンと落ちてきました。

「ギヤアアッー！」

お母さんがすごい声を出しました。どうやらびわの種を虫だとまちがえた様です。少しらしいせいになったお母さんが、

「この種どうしたの。」

と、聞きました。

「給食で出たびわの種。すごくおいしかったから。」

と、答えました。それだけしか言えなかったけれど、お母さんは、とてもうれしそうに、「よかったねえ。」

と、わらっていました。そして、その種を、ベランダのプランターにまいていました。

その後、ぼくとお母さんと、びわの種に水やりをしました。とうとう芽は出てきませんでした。でも、ぼくにとっては、楽しいけいけんでした。このびわの事は、もう2年も前のことですが、今でも思い出して、お父さんお母さんとわらっています。

学校の給食は、このびわの様に、季節の果物や野菜がいっぱい出て、おいしくてうれしい時間です。そんなおいしい給食は、学校にいるぼくたちしか食べられません。でも、メニューの事、味の事、どれだけおいしかったのか、家に帰っているいろいろ話すと、家族みんなで給食を楽しめて、みんなの思い出になるんだと、ぼくは思いました。